

主権者として財政と社会保障を考える

米沢市立第四中学校教諭 3学年 三宅 早苗

実施年月日：令和7年1月14日～17日 60名

1 実践計画・指導のねらい

本単元は税や財政の役割を学び、これからの日本の社会保障制度のあり方について考える単元である。生徒は、「税は必要だ」と思っているように見えても、実際にどのような使い道で税が使われているのかをよく知らなかったり、「税負担は軽いほうがいい」と思っているように見えても、その負担によってどのような恩恵を受けているのかをよく知らなかったりすることが多い。そこで、本単元では、まず税や財政の意義をしっかりとらえさせたい。その後、現在の社会保障制度がどのように成り立っているのかを理解させ、よりよい負担と保障の在り方を主権者として考えさせていきたい。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問（○）、こどもたちの反応（●）、使用教材等（□）
1	財政と税の公平性 ・財政とは何かを知る。 ・国の歳入・歳出のグラフから主な収入源と使い道についてとらえる。 ・税の種類を知る。 ・税の公平性について考える。	○ <u>所得に関係なく同率の税負担をする間接税と累進課税の方法がとられる直接税は、どちらが公平だと思いますか。</u> ● 税率が固定されているもの、されていないものがあるのは、互いに支え合い、公平性を保つためだとわかった。 ● 所得が多い人ほどとられていく金額が大きいというのに最初は違和感を持っていたが、所得が少ない人にとって、所得が多い人と同じくらいの税をとられていくことはとても苦しいことなのだと理解できた。 □使用教材名 教科書「新しい社会 公民」（東京書籍）
2	税と財政の役割 ・動画から、もし税がなくなったらどうなるかを考える。 ・財政の役割と課題を知る。	○ <u>もしも税がなくなったら、どのようなことが起こりますか。</u> ● 私たちが普段払っている税は、生活のあらゆる場面で使われていて、なくてはならないものだった。 ● 税は国民を守るためにある。 □使用教材名 国税庁動画チャンネル「ようこそアナザーワールドへ」 教科書「新しい社会 公民」（東京書籍） 私たちの暮らしと税 令和6年度版
3・4	社会保障のこれからを考える ・日本の社会保障制度の仕組みを知る。 ・少子高齢化によって、社会保障にどのような課題が生じているのかに気づく。 ・スウェーデン、アメリカの社会保障のメリット、デメリットについて調べる。 ・これからの社会保障のあり方について、自分の考えを持ち、意見交換する。	○ <u>これからの日本の社会保障の在り方について、どうしていくべきでしょうか。</u> ● 税金や社会保険料などの国民の負担はそのまま維持していくべき。若い世代の負担が大きすぎると経済的成長ができなくなる。負担が小さすぎても安全に生活していくための公共サービスが足りなくなってしまう。 ● 税金などの国民負担が多いと生活が大変かもしれないけれど、それに見合った公的サービスがあるのならば負担が大きくてもよいのかなと思った。 日本は高福祉高負担ではないけれどスウェーデンのように信頼があるからこそ、税が高くて国に任せられるのだなと感じた。 □使用教材名 教科書「新しい社会 公民」（東京書籍） 私たちの暮らしと税 令和6年度版

【指導のポイント】《1時間目》

税の種類の違いを理解させうえて、税の公平性を考えさせる。全体としての公平性が保たれるように様々な税があることに気づかせたい。

【指導のポイント】《2時間目》

動画の活用によって、税がなくなったらどうなるかを具体的にイメージできるようにした。その後、「私たちの暮らしと税」を使って財政の役割（p4）を学んだため、理解が深まった。

【指導のポイント】《3・4時間目》

日本の社会保障の仕組みと課題については教科書を使ってとらえさせた。スウェーデンとアメリカの社会保障制度についてはタブレットを使つての調べ学習とした。具体例を理解したうえて、将来の社会保障のあり方を考えさせるようにした。

3 実践の成果（◎）と課題（◆）（租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など）

- ◎ 動画の活用により税がなくなった世界を具体的にイメージでき、税の大切さを実感しながら学習することができた。また、諸外国の社会保障制度を調べた後に、日本の社会保障の在り方を考えたので、今後日本はどうしていくべきかをより具体的に考えることができた。生存権を守るための社会保障であり、その制度を支えるための税や保険料であることをとらえることができた。
- ◆ 来年度の予算など国会で話し合われていることに触れながら学習を進めたが、さらに現実の社会で起こっていることとつなげて学習ができるとよかった。今後はもう少し、その時に起こっている政治の動きと絡めながら学習できるように、教材開発をしてみたいと思う。